
「膿瘍形成虫垂炎に対する待機的虫垂切除術時の

癒着形成のリスク因子に関する研究」に関するお知らせ

このたび、当院で診察を行った患者さんの診療情報を用いた以下の研究を実施いたします。
本研究は、【埼玉医科大学病院 IRB】の承認を得て、病院長による許可のもと行うものです。
本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、カルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

研究の概要について

1. 研究の対象となる方

2012 年 7 月 1 日から 2024 年 6 月 30 日の期間に埼玉医科大学病院 小児外科を受診し、膿瘍形成を伴う急性虫垂炎と診断され、抗菌薬や膿瘍ドレナージによる保存的治療を行った後に待機的に虫垂切除術を行った患者さんを対象としています。

2. 研究の目的

膿瘍形成を伴う急性虫垂炎では急性期の手術はリスクが高く、約 3 カ月の期間を空けてから待機的に虫垂切除術を行った方が、虫垂周囲の癒着が少なく手術操作が容易で合併症のリスクも少ないとされています。一方で待機的に手術を行っても、高度な癒着が形成されていて手術に難渋する患者さんもいらっしゃいます。本研究では、どのような患者さんで待機的虫垂切除術時の癒着が高度になるのかを明らかにし、治療に役立てることを目的としています。

3. 研究期間

病院長の許可後～2025 年 12 月 31 日

4. 利用または提供の開始予定日

2025 年 3 月 17 日

開始予定日以降も研究への利用停止などのお申し出に対応いたします。

研究に用いる試料・情報について

1. 試料・情報の内容

- ・基本情報（性別、患者年齢、身長、体重）
- ・病状経過（症状、発症から治療開始までの期間）
- ・膿瘍形成時の身体所見（体温、腹膜刺激症状の有無・範囲）検査所見（血液検査所見、画像所見（CT、エコー）膿の細菌培養結果）
- ・保存的治療の内容（投与した抗菌薬の種類、膿瘍のドレナージの有無、抗菌薬投与期間、退院時の血液検査所見、退院後の抗菌薬内服の有無）

- ・手術情報（保存治療後の待機期間、手術時間、鉗子ポートの追加の有無、周術期合併症、術後在院日数）

上記項目のデータは診療記録等を用います。この研究で得られた患者さんの情報は、埼玉医科大学病院 小児外科において、研究責任者である鈴木 啓介が、個人が特定できないように加工した上で管理いたします。そのため、患者さんのプライバシーが侵害される心配はありません。

2．試料・情報の取得方法

上記項目のデータは診療記録等を用います。

3．試料・情報を利用する者（研究実施機関）

- ・埼玉医科大学病院 小児外科 鈴木 啓介（研究責任者）
- ・埼玉医科大学病院 小児外科 田中 裕次郎
- ・埼玉医科大学病院 小児外科 関 千寿花
- ・埼玉医科大学病院 小児外科 五嶋 翼
- ・埼玉医科大学病院 小児外科 吉田 美奈
- ・埼玉医科大学病院 小児外科 中島 優太

4．試料・情報の管理責任者

【埼玉医科大学病院】病院長 篠塚 望

お問い合わせについて

ご自身のカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。

ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

埼玉医科大学病院 小児外科 鈴木 啓介

住所：〒350-0495埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38

電話：049-276-1654（土日祝日を除く 8：30～17：30）

メールアドレス：suzuki25@saitama-med.ac.jp

○研究課題名：膿瘍形成虫垂炎に対する待機的虫垂切除術時の癒着形成のリスク因子に関する研究

○研究責任者：埼玉医科大学病院 小児外科 鈴木 啓介